

【海外留学レポート】

留学のすすめ

-留学で学ぶ、自分-

Take a Chance to Study Abroad: Discovering Myself in Vietnam

株式会社丸井グループ 二階堂 夕海

NIKAIDO Yuumi

(MARUI GROUP CO., LTD.)

キーワード：交換留学、ベトナム、初海外、ASEAN、インターンシップ、トビタテ!留学 JAPAN

1. はじめに

私は大学2年生の後期に、ハノイ大学 Faculty of Management and Tourism (以下FMT) における1学期間の交換留学を行った。この経験は大学生活の中でも特に精神面での成長を感じる機会となったことから、振り返るたびにこの経験に恵まれた自分を幸運に思うとともに留学実現に関わっていた方々へは何度でも御礼を言わせていただきたいと感じる。

今回はそんな私の留学経験について、実現までの道のりから帰国するまでを簡単に紹介していく。一人でも多く留学への一歩を踏み出すきっかけとなるようなものになっていただければ幸いだ。

2. ベトナム留学のきっかけ

大学在学中に長期留学をするというのは、私にとって高校生の時からの目標であり夢であった。英語の音の美しさに惹かれ、大学を卒業する時にはネイティブスピーカーのようにきれいに、話せるようになりたいとの思いがあったからだ。

しかし結果として私が留学したのは非英語圏のベトナムである。高校生の時に想像していた留学とは、英語圏に行って学校で英語を学び、またその地で生活することで異文化理解をする、というものだった。もちろんそういった留学プログラムも存在し、ひとつの海外経験をするという点で意味はあるものだと思うが、実際に大学で留学関連の情報を集めていくと様々なことが分かってきた。まず、私が在籍していた大学は世界各国の様々な地域に協定校を持っており、留学とは何もアメリカ・カナダ・オーストラリアなどの英語圏のみへの渡航に限られるものではないということ。そして、当たり

前かもしれないが、留学は英語の力をつけるためだけのものではないということ。特に私が目標としていた交換留学の場合には、留学先の大学で現地の学生と共に授業を履修し単位を得るところまでできるので、何か専門的な学びに海外で取り組むことができる。

そうして私は、英語を使ったおもてなしをする仕事として興味を持っていたホテルや旅行などの観光産業に関わりのある留学にチャレンジしたいと考えるようになった。私の大学との協定校のうち観光分野を学ぶことのできる大学は複数あり、中には英語圏の大学もあった。英語圏の大学を希望しようかと丁度渡航先について考えていた時期に、海外協定校の学生と共に英語で学ぶ短期集中講義が学内で開催され、そこでハノイ大学からの参加学生に出会ったことが、結果的にベトナム留学の決め手となった。彼女は自分と同じく英語の第二言語話者であるにも関わらず流暢に英語を話し、また他大学のネイティブスピーカーの前でも堂々と発言していた。当時英語を話すことに今以上に難しさやハードルを感じていた私は、そんな彼女にとっても感銘を受け、彼女が在籍するハノイ大学への関心が高まっていった。私が留学を始める時には彼女はすでに卒業していたので、一緒にキャンパスで勉強するということはなかったが、留学を振り返ってみて自分はいい選択したと心から感じている。

3. 大学生活

ハノイ大学では履修者の国籍に関わらず、基本的に全ての授業が英語で行われている。私は日本の大学では言語学を専攻しており、経営や観光について学んだ経験がなかったので、外国語で受けるということに加え「新たな学問分野である」ことに緊張と期待をしていた。

1学期間の交換留学ということで、私はFMTの3つの授業を履修した。ハノイ大学では1つの科目に関し、内容をインプットする講義の授業とケーススタディを用いて学んだことをアウトプットするディスカッションの授業が週に1回ずつあったので、一つの授業に向ける熱量は日本にいた頃よりも多く感じた。特にアウトプットの場合には、毎回の授業の内容をしっかりと理解した上で自分で考えたことをクラスで共有することが求められたため、予習・復習を大切にすることができた。

英語を使う・英語で考える時間が格段に増えたことで語学力の向上につながったことはもちろん、日本にいる頃と比べて共同でこなす課題が多く、苦手意識のあったグループワークに取り組むことになったのは自身の成長につながったと実感している。苦手ながらも必然的にやらねばならない状況の中で必死に取り組むうちに、他人に頼ること、協力すること、一緒に頑張ることその達成感を人生で最も感じる時間になった。そんな気持ちの変化が行動として現れたのだと留学を振り返った時に感じるのは、ある科目の先生が試験勉強をグループでやることの意義について授業で教えてくださったことをきっかけに、自分が試験対策グループの立ち上げ者としてクラスメイトに声をかけ、休日に共に勉強したことだった。留学前には、できる限り全て一人で完結させることを好んだ自分が、一歩踏み込んだ提案をして、勉強に役立つだけでなくいい思い出となるような機会をつくることができたのは

本当に良かった。

4. エピソード

最後に、私の留学生活で最も印象的な一日のことを紹介したい。実は私の留学は二部構成で、ハノイ大学で学んだ後にベトナム南部の観光地ホーチミンでホテルインターンを行ったのだが、インターンに向けてハノイを立つ前日の出来事であった。この日を共にしたのは Tourism Guiding Skills という授業を一緒に学んだクラスメイトで、彼女たちはことあるごとに私のために集まって、誕生日や成人の日まで祝ってくれていた。ホーチミンへ立つ前日は一日中私と一緒に居てくれ、念願のアオザイを着た写真撮影に始まり、ごはんを食べて散歩をし、夜中までカフェで語り合った。1学期という短くも沢山の思い出に溢れた時間を共に過ごした友人たちともいよいよお別れというところで、私は生まれて初めて別れが悲しくて涙が止まらないという状況になってしまった。そんな自分にとっても驚き、同時にそんな強い感情を持つような関係を彼女たちと築けたことがとてもありがたく、嬉しい気持ちで胸がいっぱいであった。彼女たちのお陰で、初めての海外経験であり高校生からの夢であった留学を経験したベトナムという国が大好きになった。別れてからまだ再会はできていないが、2年以上たった今でも彼女たちとは SNS を通じて交流があり、生涯の友人としていい関係を末永く続けていくつもりである。



(ハノイ最終日、大学にてクラスメイト達と)

5. まとめ

留学を通して最も価値ある学びとなったのは、他者との関わることに對してより前向きに考えられるようになったことである。ベトナムで自分の新たな側面に気が付くことができ、「人の心を動かすのは人である」という、これからの自分の軸となる価値観を見つけられた。これは帰国後の学生生活の、大げさに言えば「人生」の大切な軸となり、満足のいく就職活動を経て現在の会社にたどり着けたという部分にまでつながったと感じている。

私の周りには留学を経験している人たち、もっと言えば私よりも学術的に深い取り組みを経験してきた優秀な人たちが沢山居り、また留学やインターンシップなどの理由から、いわゆる「ストレートで大学卒業から就活へ進む」という道を選んでいない人も数多くいる。私が留学を実現する上で、金銭的な問題を解決するに加え、よりよい留学としていけるように様々なサポートを提供してくれた『トビタテ留学 JAPAN』もそうだが、今は奨学金の制度は数多くある。留学前と後とでは、後の自分の方が好きだと感じる私からすれば、少しでも留学したいという意志がある人には「就職が」「お金が」とすぐに決めつけないでいただきたいと思う。これから先、長い人生でこの留学経験は私を支えていくであろうと思うので、一人でも多くの方にもそれぞれ自分について深く考えるきっかけや、夢の実現などの手段として留学を経験してもらいたい。